

“了”と相対的過去

——中国語のアスペクト(1)——

鵜 殿 倫 次

0. はじめに
1. “了”と限界性、持続性
 - 1.1 限界性のある持続と“了”
2. “了”と相対的過去
 - 2.1 複文における限界性のある行為と相対的過去
 - 2.2 相対的過去と動補複合
 - 2.3 動詞・方向補語複合と相対的過去・付帯状況
3. “了”と絶対的過去との結びつき

0. はじめに

いわゆる伝統的な動詞接尾辞“了”(いわゆる“了₁”)の説明は、例えば朱徳熙の「動作が完了状態にあることを表すだけで、動作が発生する時間と無関係である」というものである。コムリーもその『アスペクト』において「中国語の動詞接尾辞の“了”は、どちらかと言えば絶対的テンスというよりは相対的テンスと結びついている」と言う。

この朱徳熙の説明は『語法講義』の動詞接尾辞の項におけるもので、当該箇所では次のように述べられている。

注意すべきなのは、中国語の“了”は印欧語動詞の過去時の語尾の作用とは違うことである。印欧語動詞の過去時は、談話時以前に発生した事を表す。中国語の“了”は動作が完了状態にあることを表すだけで、動作が発生する時間と無関係で、過去に発生したことを表すこともできれば、未来に発生する出来事や仮定の中で起こる出来事にたいしても用いることができる。例えば、

- (1) 他下了课就上图书馆去了。
- (2) 下了课再去。
- (3) 关了灯就什么也看不见了。

(1)の“了課”が言うのは過去のことであり、(2)の“了課”が言うのはまだ発生していないことであり、(3)の“关了灯”は発生したことを仮定している。

朱徳熙は、“了”のこのような機能、つまり条件や時間の従属節をつくり、過去・現在・未来にたいする相対的な過去（それが「完了」の意味）を示す機能を念頭に置いて、その本質は完了であると考えた。

つぎにコムリーの言う「相対的過去」とはどういう意味かを「アスペクトの定義」で述べられている箇所で見よう。絶対的テンスと相対的テンスについて大要つぎのように述べている¹⁾。

いわゆる相対的な時間の関係づけとは、絶対的なテンスにたいして、関係場面の時間を現在との関係において位置づけるのではなく、ある別の場面の時間に関係づけられる場合を言う。例えば、英語の分詞構文は絶対的なテンスというよりも、むしろ相対的なテンスを表している。“when walking down the road, I often meet Harry” “when walking down the road, I often met Harry”において、現在分詞“walking”は主文の動詞のテンスが何であっても、主文の動詞のしめす時間とおなじ時間に位置づけられる。現在分詞を選ぶことにかかわる重要な要因は、時間の相対的な関係づけをさしだすことであり、時間の絶対的な関係をさしだすことではない。おなじように完了分詞 perfect participle は相対的な過去という時間的な関係づけをさししめしている。たとえば、“having met Harry earlier, I don't need to see him again”と、“having met Harry earlier, I didn't need to see him again”。英語では定形動詞 finite verb は絶対的なテンスを、非定形動詞 nonfinite verb の形式は相対的なテンスをもっている。(略) 文章アラビア語あるいは標準中国語には、絶対的テンスというよりも、むしろ相対的なテンスをあらわす動詞の形式がある。

コムリーは、中国語の動詞接尾辞の“了”を以上のような見方でとらえ、何カ所かで言及している。コムリーは、中国語の“了”の複文における従属節もしくは分詞構文的用法だけについて「相対的テンス」と言っているわけではないが、本稿では狭い意味で、以上の英語のような分詞節、従属節的になる場合について、相対的過去と呼ぶことにしたい。

以下本稿では次のような点を指摘する。(1)相対的過去が“了”の付加で起きない場合がある。動詞句が限界性をもつ場合や結果性をもつ場合であ

る。(2)限界性行為への“了”の付加は相対的過去ではなく、過去における行為の実現を示す。(3)「相対的過去」は“了”の付加の場合だけに起きるわけではなく、その意味で「相対的過去」の表示において“了”の付加は必要条件というわけではない。つまり朱徳熙の言う「完了」は“了”でなくとも表示できる。

1. “了”と限界性、持続性

ここでは、以上に述べたような“了”の相対的テンスの機能が作用しない場合として、限界性の動詞句について考えてみたい。これを見るまえに、まず中国語動詞と限界性について説明したい。

1.1 限界性のある持続と“了”

コムリーは『アスペクト』において、アスペクトの概念として完結相と不完結相のふたつがあるとしている。不完結相は場面をその内的構造からとらえる視点、完結相は場面を全体としてさしだす視点であると説明する。ただし完結相は、ある場面に内的時間構成がないことを表しているわけではなく、それをはっきりと言及しないことを含んでいるという。だから場合によっては、ある場面の持続の長さをはっきり表現することと矛盾しない²⁾。つまり、完結相はある場合には持続と共存することができる。

完結相と共存できる持続とは、どのようなものだろうか。

中国語の場合、“行為の一定時間の持続”を表すためには、時間量補語を付加する。時間量補語のついた動詞の性質、その動詞の違いによる意味については馬慶珠1981に詳しいが、ここでは動作の持続の場合について考えてみる。この動作の持続を意味する場合、重要なことは、時間量補語が付加されると意味的に限界性のある (telic な) 動作となる点である。ちなみにヤホントフ『汉语的动词范畴』(3.1.5.2) において³⁾、このような動作の持続を表す場合の動詞は継続性の動詞 (無限度動詞) であるという。この時間量補語がついて限界的 telic な意味になる動作は、動作の持続を表すが、限界的という性質をもつため“了”が付加できるという特異な性質をもっている。

中国語では、この場合持続を意味するアスペクト・マーカー“着”は付加できない。

- (1) 他统治了三十年中国。〈彼は中国を30年統治していた〉
- (2)* 他统治着三十年中国。
- (3) 商店开了十六个小时。〈店は16時間開いていた〉
- (4)* 商店开着十六个小时。

動詞に時間量補語がついた動詞形が“着”を付加できない理由は、この動作が限界的であるからと考えられる。中国語の“着”は持続を表しうるが、不完結相的な持続の意味を含んではいても、限界性のある動作とは共起できない。逆に動作が持続でも限界性があれば、その動作は“了”と共起する。つまり持続をもつ限界性の動作は、“了”の完結相と矛盾しないばかりか、それ自体が完結相としての「全体をひとつのまとまりと見る」見方と結びつくのである。

この点は日本語の「ている」と著しく異なっている。「ている」は時間量の限定された動作にも使用することができる。

- (5) 彼は30年中国を統治した。
- (6) 彼は30年中国を統治していた。
- (7) 店は16時間開いた。
- (8) 店は16時間開いていた。

日本語では時間が限定されていても、その動作の時間的内部構造に視点をおくことによって「ている」が使用できる。その場合「店は16時間開いていた。」は完結相ではなく、不完結の過去と考えられる。なお「ている」には、いわゆる終わりのある動詞（ヤホントフの限度動詞）については、行為の持続ではなく「落ちている」のように結果状態の持続の意味になるが、(6)(8)はその意味ではなく行為の持続である。このような行為の持続は限界的であっても「ている」がつきうる。

では中国語の場合、ある一定期間の間の持続を“着”によって表現することはできないのだろうか。中国語でも、もし次のように時間量の限定ではなく、時点の副詞として期間を述べれば“着”の付加は可能となる。

- (9) 他在这三十年之间一直统治着中国。
〈彼はこの30年間ずっと中国を統治している (いた)〉
- (10) 商店从早上七点到晚上十一点开着。
〈店は朝7時から夜11時まで開いている (いた)〉

ただしこの場合(9)の意味は、その区切られた期間（例えば話し手が中国にいた期間など）についての状態であり「統治」の期間は、その三十年の外

“了”と相対的過去

でも続いているかもしれない。この点で“統治了三十年”とはアスペクト的な意味が異なっている。“統治了三十年”は“統治”した結果が三十年ということであり、その前後は“統治”していないことを含んでいる。したがって、“統治了”は完結相としてその統治した三十年間のことを全体としてさしだしている。

さきに言及したように、コムリーは「完結相は、ある場面の持続の長さをはっきり表現することと矛盾しない」と説明する、それは中国語のこの場合によくあてはまっている。中国語では限界的な持続は完結相的な表現となるのである。

日本語の「ている」は時間量の限定だけでなく「たべおわる」のような補助動詞のついた瞬間性の動作にも付帯し「食べ終わっている」と言える。ただし、この場合の「ている」は行為の結果の状態から行為を見ている、コムリーの言うパーフェクト用法である。だが、さきの「30年間中国を統治していた」は結果パーフェクト的用法ではなく、行為の持続である。日本語が表しているのは、いわば「日本語の不完結相（状態形）は、限界的な動作と矛盾しない」ということになる。日本語では、「30年間中国を統治していた」は、通常の意味では統治していた期間は30年である。もっとも、この文は、文脈によって30年間がなんらかの特定の30年間（例えば、「私が北京にいた30年間」）であった場合、その外側で統治していた可能性を排除しない。「ている」形における「30年」は、動的な「た」の場合、一意的に限界的であることとは異なっている。

コムリーは不完結相の説明の中で、このような日本語のことには無論言及していない。ちなみに井上2002の説明では、「た」が事柄を、その発端または結末をふくめ、時間軸にそって動的に捉えている見方であるのにたいして、このような「ていた」は、ある時点または場面の属性、もしくは断片的にとらえられた事象として捉えているとしている。「ている」の「断片性」によって、限界的な行為もひとつの断片として捉えることであり「ている」形と矛盾しないことになるのではあるまいか。

2. “了”と相対的過去

2.1 複文における限界的な行為と相対的過去

さきの“了”が相対的な過去を表す機能がある、したがって“了”の本

質は完了的性格だという朱德熙等の主張にもどると、コムリーは「テンスとアスペクトが結合している形式の対立」の章で、中国語の“了”について次のように言及している⁴⁾。

“了”がある時には、過去の完結相的な場面を示している。例えば“萧队长写了一封信。”厳密に言うと、この“了”は絶対的な過去に関係づけているというよりも、むしろ相対的過去に関係づけている。このことは時間の従属節にはっきりと見ることができる。“你死了，我做和尚。”

コムリーが“你死了，我做和尚。”の例のように「相対的な過去にむすびつける“了”」と呼ぶものにたいして、文法書は次のような説明を与えている。劉月華は『实用現代漢語語法』の旧版(1983)において、「どんな時に“了”を用いるか」の項のひとつに挙げ、

ひとつの動作が実現または完了した後、別の動作が現れる（もしくは現れようとしている）場合、初めの動詞の後に必ず“了”を用いる

- (1) 听了老贫农的话，蔡立坚心情非常激动。
- (2) 明天你吃了早饭就找我来。

としている。新版(2002)ではこれを改めて、

ひとつの動作が発生もしくは完成したあと、べつの動作や状況が発生する時、最初の動詞が表す動作の発生がつぎの動作発生の時間または条件となる場合、第一の動作の後ろには一般に“了”を用いなければならない

としている⁵⁾。新版では旧版の「必ず“了”を用いる」が「一般に“了”を用いなければならない」と変わっている。ただし、一般的な場合以外に“了”を使用しないのはどのような時かについては、全く述べていない。ともかく新版、旧版いずれも、このような場合には“了”を用いなければならないとしている。

しかし、はたしてこのような（ひとつの動作が発生もしくは完成したあ

“了”と相対的過去

と、べつの動作や状況が発生する) 場合、すべて“了”を用いなければならないのだろうか。

これには次のような反証をあげることができる。たとえば、中国語では、さきに1.1で述べたような限界性のある行為が、主行為にたいして相対的過去となる場合、“了”を必要としない。そればかりでなく“了”があると不適當である。

(13) 等一会儿就走。

(14)* 等了一会儿就走。

(13)は“了”が「省略」されているのではなく、“了”を使用できないのである。おもしろいことに、なぜ“等了一会儿就去。”は駄目かと中国人に訊ねると、“等了一会儿。”は、話の時点ですでに実現したことを意味してしまうので、未来時の仮定には使えないのだという。つまり“等了一会儿”は、相対的な過去を示すことはできないのだ。“等了一会儿”のように限界性の表現に“了”がつくと、話し手の現在から見てすでに実現された過去にむすびつくのである。未来のこと、仮定のことと言えないということは、過去テンスであることを意味する。むろんこの過去は「相対的な過去」ではない。

これは時間量限定のない動作への“了”が相対的過去を表すのと対照的であり、区別しなくてはならない。

(15) 我看了电影就走。

この場合は“了”が必要である。しかし時量補語がつくと“了”は使えない。ちなみにさきに朱德熙が挙げた例はすべて(15)のような例である。

なぜ、劉月華は、旧版においても新版においても「どんな時に“了”を用いなければならないか」の中で、このような“了”を用いてはならない場合への言及をしていないのだろうか。

これに関連して、さきに挙げたコムリーの“了”への言及箇所を、もう一度見てみよう。

“了”がある時には、過去の完結相的な場面を示す。例えば“萧队长写了一封信。”厳密に言うと、この“了”は絶対的な過去に関係づけているというよりも、むしろ相対的過去に関係づけている。このことは時間の従属節にはっきりと見ることができる。“你死了,我做和尚。”

コムリーの言う“你死了，我做和尚。”の“你死了，”は相対的な過去であることに議論の余地はない。しかしコムリーはそれを理由にして最初の例“萧队长写了一封信。”も「絶対的な過去に関係づけているというよりも、むしろ相対的過去に関係づけている」としているようである。というよりも、そのように読める。つまりコムリーは、中国語の“了”全体を、朱徳熙が完了としたように、理解しようとしているようだ。

しかし“萧队长写了一封信。”の例については、疑問が生じる。この例はヤホントフ前掲書のものであるが“写了一封信”は、時間量補語に限定されてはいないが、“写一封信”のフレーズは明らかに限界的な動作である。このため、時間の従属節になった場合“了”を付加しない言い方が適切である。つまり、この形は相対的過去を示すことはできないのである。

(16) 我写封信，就走。

(17) ?? 我写了一封信，就走。

(17)は明らかにおかしいと確認した中国人は言う⁶⁾。

このような時量限定もしくは目的語への名量限定のある動作に“了”が付加した時のテンス・アスペクトについて、朱徳熙は直接の言及はしていないが、おなじ『語法講義』に次のように述べた箇所がある⁷⁾。

形容詞に“了”が加わり、後に数量詞あるいは“很多”がついたものなどからなる目的語が続くとすでに実現した事態を表す。

短了一寸

稍微大了一点

(略) 注意すべき点は、“了”を伴わなければ、未然の事態も已然(已实现的事)の事態も表し得るが、“了”を伴うと已然の事態しか表せないということである。

ここでは形容詞+数量に“了”がついたものは已然であるとしている。すでに起こったこと(已实现的事)とは、過去のことであろう。この朱徳熙の指摘は形容詞への数量+“了”の付加の場合であり、我々の問題にしたのは動詞への時量+“了”であるが、これは同軌の事態をとらえているのではないだろうか。

以上のことから見ると、次のことがわかる。

(1) 複文において、従属節の動作に限界性があると、それ自体で“了”

の相対的過去の作用を代替する。

- (2) そして限界性のある動作に“了”をつけると朱徳熙の言う「すでに実現したこと」、ここで言う絶対的過去になる。

2.2 相対的過去と動補複合

以上見たのは限界性行為が“了”をとともなわずに複文の従属節で相対的過去を表すことができる現象であったが、このことは他の形式による非継続的行為にも広がりをもっている。すなわち限界性のある動詞以外に、いわゆる結果補語・方向補語のついた複合性動詞についても同様のことが観察できる。

- (18) 我做完作业，就去玩儿。
(19) 他进到屋中就哭了。(月牙儿23)
(20) 穿上衣服，我自己看出我的美。(月牙儿22)
(21) 可是放下那点儿东西，我还有什么呢。(月牙儿24)

劉1983では「どんな時に“了”を省略できるか」で、動詞のうしろに結果補語または方向補語がある場合、“了₁”は省くことができる。複文中に二つ以上の分句がある時、最後の分句以外の分句にある動補フレーズにはふつう“了₁”を用いないことが多い。動補フレーズが最後の分句にある場合は、“了₁”を用いることが多く、これによって一つの文が言い切りになる語気を表すことができる。とする⁸⁾。これは劉2001になると「動詞の後ろに結果補語もしくは方向補語がある時、文中のひとつの成分が動作状態の既発生を表せば、文中の“了”を省略できる」と改められている⁹⁾。

- (22) 有一天，仿佛黑夜里亮起一道闪电，他突然想起了鲁迅先生

劉はこの場合の“亮起”における“了”の省略は、主動詞である“想起”に“了”がついていることによって可能になると説明する。しかしこの説明はいささか奇妙である。“亮起”が方向補語によって結果性をもつために、“了”を使用せずに相対的過去を示すことができると考えてはいけないのだろうか。なぜなら(18)(19)(21)のように、主動詞に結果補語、方向補語がなくとも従属節の“了”の省略は起こるからである。

ではこのように前の従属節に結果補語がつく場合、“了”が付加できるだろうか。

- (23) 我吃碗饭，就走。

(24) 我吃完了饭, 就走。

この場合“我吃了饭, 就走。”は問題がなく、(24)の結果補語がついた場合も可能である。この点で、従属節の動詞句が限界性のものの場合と、このような結果性のものの場合とは違いがあることがわかる。しかし“了”がなくとも相対的過去を表しうる点は、共通している。

2.3 動詞・方向補語複合と相対的過去・付帯状況

もっとも同じ動補複合語でも、結果補語によるものと方向補語によるものとは「相対的過去」のありようは、少し異なるようである。典型的な相対的過去は「你死了, 我作和尚」のような「AならB」という継起的関係(Aが起きBが起きる)である。しかし動補複合語が“了”をとともなわずに、この関係を表す場合、次のようなことが起きる。

(25) 这个, 逼上我的气来, 我问她: “你什么时候坐汽车” (月牙儿27)

この文は〈これが、私の癩にさわり、私は彼女に「じゃあ、あんたはいつ自動車に乗るのよ」と聞いてやった〉という意味だが、生じた「癩にさわる」という感情の状態は次の行為「聞いた」の付帯状況にもなっている。完全にAが終わり、次にBが始まるという関係ではない。なぜか。方向補語は移動が基本義であるが、移動した存在が残るために、それが後続する文の付帯的な状況となるからである。コムリーはこのような相対的過去のもつ現在時への結果状態の残存に言及していないが、相対的過去が、それに続く行為にたいして結果パーフェクト的意味をもつことは、コムリーの挙げる例にも読みとれる。

(26) Having met Harry earlier, I don't need to see him again.

〈ハリーに会って、用事などは済んでいる〉という状態があるから〈また彼に会う必要がない〉ことになる。

このような第2の時(通常は現在時)への結果状態の残存によるパーフェクト的意味は、方向補語の場合に限らず、結果状態の残る意味の動詞-結果補語複合の場合にも見られる。

(27) 过去拉住妈妈的手: “妈不哭! 妈不哭!” 妈妈哭得更恻了。(月牙儿)

例えば“我写完信, 就出去了。”は、もし手紙をもってそれを出しに行ったのであれば、結果の状態が含意されることになるが、“写完信”は行為の終了だけを意味し、別の用事で出かけたのかもしれない。しかし上の(27)

では「手を引いて」の状況は「お母さん、泣かないで」と言っている時にも続いており、結果パーフェクト的な状態の意味が後続動作の付帯状況となっている。このパーフェクトの意味は「手をぎゅっと引っばる」と「泣かないで」との意味が、こうした読みを認知的に生じるのか、それとも“拉住”という動補複合がそのような結果状態の意味を語彙的にもつからなのかという問題があるけれども。

動詞-方向補語の例をさらに挙げてみる。

(28) 妈妈似乎有点儿怕了，含着泪，扯起我就走，走出老远，她回头看了看，我也转过身去。

(29) 觉出我长大了一些，我更渺茫，我不放心我自己。

(28)では“含着泪”が付帯状況であるが“扯起我”の〈手を引っ張って〉の動作は、文字通りには、その動作の開始を意味するが、後続の“走”に付帯する状態と読むのがふつうである。つまり“含着泪”“扯起我”はどちらも“走”にたいする付帯状況を表す状語の作用をしているのである。また(29)では“觉出我长大了一些”〈自分がすこし大きくなったのを感じる〉は“我更渺茫，我不放心我自己。”の原因節もしくは時間節であるが、「感じる」という動詞の意味から、それを感じている状態が主節にかぶっているという読みになる。

このような“了”をとともなわず、付帯状況を意味する「相対的過去」の節は、動詞-方向補語の複合動詞がもつ「終わりのある動詞」(ヤホントフ)の意味によって、相接する事態を表すのだが、さきの時間量の限定とは異なり“了”が現れることもできる。

次の例では“了”が使われる。

(28) 每当我很她的时候，我不知不觉地便想起她背着我上坟的光景，想到了这个，我不能很她。

この場合“想到了这个，我不能很她。”と“了”を使うことによって、付帯状況をともなう状語的な動詞フレーズから、「こう考えたら(ので)」という已然の意味となっている。もっともこの場合“我不能很她。”の主節は現在の状態なので、“想到了这个，”と“想到这个”の意味の違いはほとんどない(注10参照)。

(29) 我们爬到山顶上喝水吧。

(30) 我们爬到了山顶上再喝水吧。

この場合も、“了”が付加することは可能である。

ところで、相対的過去に用いられる“動-補”と“動-補+了”は、同じアスペク的な意味を担っているのか、それとも互いに対立するものなのかという疑問が生じる。もし互いに対立するとすると、“動-補”は“動+了”の代替とは言いにくくなる。

そこで、複文でない場合の動補複合における“了”の有無を考えてみよう。

(29) 我只有这么个妈妈、朋友。我的世界里剩下我自己。(月牙儿13)

(30) 墙边也有棵什么树,开满了白花,月的微光把团雪照成一半儿白亮,一半儿略带点儿灰影,显出难以想到的纯净。

“我的世界里剩下我自己。”には、その時に〈私の世界には私ひとりが残されている〉という状態の存在というパーフェクトの意味が含まれている。これを“我的世界里剩下了我自己。”となれば結果パーフェクトの意味は含みに退き、〈残された〉という動きの意味が強くなるのではないか。(30)の“動-補”の例のような情景描写では、その描写(語り)の時点に、その動詞の結果である「想像しがたい清らかさ」の状態があることが鮮明になる。

このような複文における動詞-方向補語複合は、“了”のマークがないと結果パーフェクトの状態に重点を置く点で不完結相的に見える。しかし形態的には“着”が付帯できないのであるから語彙的アスペクトのレベルではあるが、完結性である。これが、複文に使われると、結果状態のパーフェクト的な意味が生じ、実質的に“着”の付帯した場合に生じる結果パーフェクトと同じ意味を表すことになる。さきの“扯起我”は“含着泪”と並列されて“走”にたいする付帯状況を表している。しかし“含着泪”の意味する持続は指示的なものであるが、“扯起我”の付帯状況の意味はパーフェクト的な含みである。複文の二つの時の提示から生じると言ってもよい。

再び“我的世界里剩下我自己。”と“我的世界里剩下了我自己。”の違いは何かに戻ると、“我的世界里剩下我自己。”では〈私の世界には私ひとりが残されている〉という状態の存在の意味はパーフェクト的に生じているだけだが、“我的世界里剩下了我自己。”は、完結相の“了”がつくことによって、その結果状態は動的な過程の結果としてひとつの過去完結相的な事実となっていることを意味するのではないか。わかりやすく言えば、前者はいわゆる「完了」であるが、後者は「過去」なのである。さきの“想

到这个”と“想到了这个”の違いも、動補複合という語彙的なアスペクトによるパーフェクト的な相対的過去の意味と完結相の“了”のマークによる動的にもたらされた結果状態の存在という意味との違いがあるはずだ。しかし従属節で用いられた場合、その意味の差が出ないのであろう¹⁰⁾。

いわゆる「パーフェクト」もいわゆる「過去」も、すでに起きた出来事と現在の状態というふたつの時の関係である点で共通している点がある。強いて言えば、前者は現在の状態から暗示される過去にすぎないが、後者は時の上に定位された過去であるとする、この場合の完結相の“了”のマークによる意味は後者に近いのではないだろうか。

3. “了”と絶対的過去との結びつき

冒頭の朱徳熙が述べるような従来の“了”についての説明は、“了”が相対的過去を表すことがあるが故に、“了”の本質は、相対的過去に結びついているとされている。しかし以上に述べたのは、“了”が欠如しても相対的な過去を表すことができる場合があるということ、そして“了”があると相対的過去が表せない場合があるという現象である。

このことから、次のようなことが言えないだろうか。

いわゆるパーフェクト的な相対的過去は“了”だけでなく、数量詞の動詞もしくは目的語への付加による限界性の形成や動詞への補語の付加などアスペクト的な語やフレーズの形態構成（動詞だけでなく目的語を含めたもの）によって担うことができる。

継続動詞に動詞接尾辞の“了”が付加した場合には、“我吃了饭”は言い切りにならないように、たんにパーフェクト的な意味になってしまう。庐英順1995は“明天他到了南京，我去看望一下”が“*明天他到过南京，我去看望一下”と言えないのは、“过”は単なる動作の終了だが、“到了南京”には、その結果として〈彼が南京にいる〉という含みが生じるからだという。この場合の“了”の作用は、パーフェクトである（“到过”には、この場合パーフェクトの意味が生じない）。

従属節をもつ文でのこうしたパーフェクト的な相対的な時の関係（主節の時と従属節の時の違い）は、動詞が一定の形態構成（ドラグノフの語）をもたない場合は“了”が担うが、いったん一定の形態構成をすると“了”なしで、パーフェクトが形成されると言うのが、本稿で見たことである。

ところが“等一会儿”のように動詞が限界性をもつと、それ自体はパーフェクトの意味がもてるのに、いったん“了”が付加するとパーフェクト的な意味(相対的過去の意味)をもつことができない。動詞の限界性と“了”がパーフェクト的な意味を生むのを阻むからだと考えられる。限界性の行為は結果状態や後続行為への影響性の含みをもたず、いわばそれ自体の中で完結する(ひとつの出来事を形成する)。おそらくこうした動詞句による従属節の継起的な意味(等会儿就走)は、語彙的な結果状態などの意味によって生じているのではないと考えられる(パーフェクト的読みの発生は、語用論的、認知的なことが介在しているのかもしれない)。限界性の動詞句はそうした意味的な影の「長さ」(後続行為、結果状態等)がない。それゆえに限界性なのである。このような限界性の行為に“了”が付加すると、その出来事は、後続行為や結果状態ではなく、話し手の現在への出来事の定位として働き、そのような意味での「相対性」となり、この場合は過去テンスを意味する。

我吃了一碗饭。

我看了一天书。

この場合には、パーフェクトとしての相対的なテンスではなく、話し手の時を基準とした、過去テンスを意味することになる。

ここでの議論は、動詞接尾辞としての“了”であったが、語気詞の“了”を交えた議論をすると、過去テンスの意味に“了”がなることは、語気詞の“了”にも言える。

我吃过饭就走。 (相対的過去)

我吃过饭了。 (相対的過去～絶対的過去)

“我吃过饭了。”は特定の時間に結びつけられてはいない。しかしまた英語の完了のようなパーフェクトとは異なっている。英語のパーフェクト形は現在の状態より相対的に前であることしか表さず、特定の時間の実現を表すことはできない。

* I have had breakfast this morning.

しかし中国語では“了”の付加によって(この場合は語気詞の“了”)は特定の時間における行為の実現を表すことができる。

我吃饭了。 (時間指示なし、含みとして話し手の現在)

我昨天上午吃饭了。(特定の時間)

動詞接尾辞“了”の場合も、時間詞と共に起する。劉月華他は、旧版およ

び新版において「どんな時に“了₁”を用いるか」の第1番に挙げている。「ある時点において、ひとつの動作・行為が実現または完了したことを述べる場合。文中に具体的な時間を表す状語が含まれていることが多い。」として“十月的一天上午，我参观了一个幼儿园。”などの例を挙げる。

意味的にも、この場合は時点の副詞が表す時と行為の実現の時とのふたつの時のあいだの相対的パーフェクトではない。ひとつの過去の出来事を、動的にとらえているという意味で、ヤホントフのように過去完結相と言うべきものである。

コムリーは、テンスとアスペクトとが重なりあったシステムをもつ言語として文章アラビア語と中国語を挙げている。中国語の“了”（動詞接尾辞、語気詞の“了”）は、このような視点で再検討する必要がある。

注

- 1) “Aspect” p. 1-3
- 2) 上掲書 p. 21、1.1.2 「完結性と他のアスペクト的性質」
- 3) 邦訳 p. 190
- 4) “Aspect” p. 82-83
- 5) 『实用现代汉语语法・増訂本』 p. 372
- 6) 愛知県立大学大学院国際文化研究科学生の于刺氏（30歳、男性、吉林省長春市出身）によると、次の場合も同様のことが言える。
1a 你来了电话，我就去。 1b ?? 你来了一个电话，我就去。
2a 吃了饭，就走。 2b ?? 吃了一顿饭，就走。
「あなたから電話があったら行きます。」の意味では1aが適当であり、1bにその意味はない。1bの文は「あなたから電話があったので、行くのです。」のように従属節部は、已然の意味で理解されやすい。同様に「ご飯を食べてから行きます。」の意味では2aが適当であり、2bはその意味としては、非常におかしな感じがする。
- 7) 『语法讲义』 5.15.3
- 8) 『实用现代汉语语法』 p. 210-211
- 9) 『实用现代汉语语法 増訂本』 p. 357
- 10) “了”をとともなわない動補複合が複文において「付帯状況」を表す場合、ここではコムリーの言葉を借りて「結果パーフェクト」的な意味となると説明した。なお、石川2006は、おなじ現象にたいして“了”がつかない場合、付帯状況の読みになるということは、ふたつの継起的動作（前者が相対的過

去)が「ひとつの場面」で起こることと理解されると説明する。これにたいして、“了”がついた場合、例えば1bや2bの場合、連続性をもつひと続きの場面としての解釈の他に、二つの出来事の連続としての読みが可能となるのだとする。すなわち、以下の例で1b、2bは〈ご飯をたべてから行く〜ご飯をたべたので行く〉や2b〈服を洗ったら着られる〜服を洗ったので着られる〉の意味がある。後者が二つの出来事としての解釈である。

1a 我吃完饭就走。 1b 我吃完了饭就走。

2a 我洗完衣服就可以穿。 2b 我洗完了衣服就可以穿。

二つの出来事との解釈は、むろん無関係な二つの出来事ではなく、継起的な動作の第1動作は、第2動作の原因となる。原因と解釈されるのは認知的なものであろう。

おもしろいのは、石川の言う「二つの出来事」の解釈となった場合、同じインフォーマントによると、この第1動作は、既に起きたこと(朱徳熙「すでに実現したこと」、この論文で言う「過去」)の意味となる点である。なぜこの場合〈ご飯を食べたので〉〈服を洗ったので〉という過去のことに解釈されるのだろうか。その理由は複文解釈の認知構造が関わっていると考えられるが、少なくとも“了”の働きがこれに関係していることは間違いない。

参考文献

Comrie, Bernard 1976. “Aspect” Cambridge University Press (山田小枝訳『アスペクト』むぎ書房)

Chao, Yuen Ren 1968. “A Grammar of Spoken Chinese” University of California Press
井上優他2002. 「テンス・アスペクトの比較対照 日本語・朝鮮語・中国語」
『対照言語学』東京大学出版

石川美幸2006. 「“了”のアスペクト性について——文法書の記述にない用法」
愛知県立大学外国語学部中国学科平成17年度卒業論文

金立鑫1998. 「试论“了”的时体特征」『语文教学与研究』1998年第1期

Li, Charles N. & Thompson, Sandra A. 1981. “Mandarin Chinese” University of California Press

李向浓1997. 『现代汉语时点时段研究』华中师范大学出版社

刘月华等1983. 『实用现代汉语语法』外语教学与研究出版社。(相原茂監訳『現代中国語文法総覧』くろしお出版)

刘月华等2001. 『实用现代汉语语法 增订本』. 商务印书馆

庐英顺1995. 「动词后缀“了”」. 胡裕树・范晓主编『动词研究』河南大学出版社(于康・张勤编『テンスとアスペクトII』好文出版)

吕叔湘主编1980. 『现代汉语八百词』商务印书馆

“了”と相対的過去

- 马庆珠1981. 「时量宾语与动词的类」『中国语文』1981年第2期
- 高橋太郎1985. 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』(国立国語研究所報告82) 秀英出版
- 鷺尾龍一・三原健一1997. 『ヴォイスとアスペクト』(中右実編『日英語比較選書』7巻) 研究社
- 雅洪托夫1957. 『汉语的动词范畴』陆孔伦译, 中华书局 (ヤホントフ C. E. 『中国語動詞の研究』橋本萬太郎訳, 白帝社)
- 朱德熙1982. 『语法讲义』商务印书馆. (杉村博文・木村英樹訳『文法講義』白帝社)

用例

老舍「月牙儿」『老舍文集』人民文学出版社, 1985

付記

中国語例文については、とくに断りのない限り、愛知県立大学大学院国際文化研究科学生李嘉馨氏(内モンゴル自治区、通遼市出身、33歳、教員、男性)に確認をお願いした。